

さいくうあと通信

発行 明和町 斎宮跡・文化観光課
 (三重県明和町大字馬之上 945 番地)
 電話: 0596-52-7126 FAX: 0596-52-7133
 E-mail: saikuuato@town.mie-meiba.lg.jp

とみわ 戸峯B遺跡を発掘調査しました!!

調査場所: 明和町大字池村字戸峯

速報!!

調査期間: 平成 29 年 5 月 11 日～9 月 15 日

調査面積: 約 1,000 m²

調査主体: 明和町斎宮跡・文化観光課文化財係

調査原因: 太陽光発電施設設置事業



見つかった焼成坑、田んぼの向こうに斎宮跡が見えます

～奈良時代の土器焼成坑を多数発見～

発掘調査では、奈良時代(およそ 1300～1200 年前)の土器を生産するためのさまざまな痕跡が見つかりました。特に土師器と呼ばれる素焼きの土器を焼く為の「焼成坑」が 32 基も見つかりました。町内で見つかる焼成坑には、平面の形が二等辺三角形になる共通した特徴があります。戸峯B遺跡では、山の斜面の高低差を利用して熱効率が良くなるように工夫がされていたようです。また、竪穴建物 2 棟や溝などが見つかりました。竪穴建物は土器を作る工人の作業スペースの可能性が考えられます。溝の中からは土器製作に用いたと考えられる粘土が確認されました。

戸峯B遺跡で作られた土師器は、斎宮や伊勢神宮で用いられたと考えられます。

土師器焼成坑の数は町内で 2 番目の多さ

今回の調査で見つかった焼成坑を加えると、戸峯A・B遺跡では合計 132 基にのぼり、北野遺跡の 228 基に次いで町内で 2 番目に多数です。また、町内でこれまでに見つかった焼成坑は、572 基(平成 29 年 11 月現在)で、三重県内でもほとんどが明和町に集中しています。

<焼成坑模式図>

土器を焼くことで焼成坑の壁や床は被熱して赤く、硬くなっています。特に中央から奥壁が変化します。



【発掘現地説明会】

たくさんの方に調査成果を
 広く知って頂きました!

【期間】: 平成 29 年 9 月 4 日～
 9 月 8 日

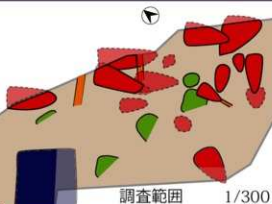
【参加者数】: 113 名
 (調査期間全ての見学者を含む)



<戸峯 B 遺跡 遺構略図>



竪穴建物



調査範囲 1/300



溝から大量に出土した土器

- 土師器焼成坑
- 溝
- 竪穴建物
- 土坑



発掘調査の様子

～出土した土器などを現在整理中です～



焼成坑からは、表面が剥離するなど失敗品と思われる土器も出土しています。



杯の底にへうで記号が描かれています。
生産地を示すものでしょうか。



出土した土師器の一部 (甕、杯)

歴まちカード (数量限定) を配布中です！ ～全 12 種類～



歴史まちづくり法が定める歴史的風致維持向上計画の認定を受けた 12 都市 (明和町・亀山市・伊賀市・犬山市・名古屋市・岡崎市・高山市・郡上市・恵那市・美濃市・岐阜市・三島市) で、各市町の象徴的な風景を紹介する「歴まちカード」(無料) を配布しています。

明和町では、さいくう平安の杜西脇殿で配布中です。